

石川県剣連だより 剣風春秋

第49号

— 発行 —

一般財団法人
石川県剣道連盟

〒920-0811

金沢市小坂町西 57-3 KSハイツ205号室

TEL 076-253-0310 FAX 076-253-0341

E-mail: ishikawa-kendo@iaa.itkeeper.ne.jp

URL: www.ishikawa-kendo.com

特集記事

2頁 「石川インターハイを振り返って」

県高体連剣道専門部委員長

金沢桜丘高校教諭 小田哲生

5頁 「郡市剣連紹介コーナー」

河北郡市剣道連盟

羽咋郡市剣道連盟

「コロナ禍の中で」



副会長

末平 佑二

(範士八段)

一 はじめに

令和2年2月24日の政府の専門家会議の意見を踏まえ、翌々日に国からイベントの中止、延期、縮小の自粛要請が示されました。以来、全剣連の各委員会においては、会議はほぼリモートとなり、約2年間にわたり実技を伴う講習会は中止や延期を余儀なくされてきました。

その間、全日本剣道連盟から「対人稽古の自粛依頼」が発出され、6月には「感染防止のガイドライン」が策定されました。三密回避、面マスク・シールドの着用、さらには、鏑競り合いを避けるなど細かく感染対策が盛り込まれ

ました。そして、この鏑競り合いにかかる感染対策を受けて試合・審判委員会により「コロナ収束までの暫定的な試合・審判法」がまとめられました。今後は関係委員会の講習内容にも組み込まれることとなります。

二 新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合・審判法

これまでの試合は、試合時間の3分の2以上が鏑競り合いであることから、これを無くして、立会の間合からの攻め合いを中心とした試合展開へ善導するとの趣旨が述べられています。現在の審判規則を変えるものではなく、試合者・審判員が相互に密な状態にならないように規則の運用を工夫したもので、令和3年3月の全日本選手権大会から運用されることになりました。

具体的には、

- ① 試合者は鏑競り合いを避ける。
- ② 接触した瞬間の引き技及び体当たりからの技を積極的に出す。
- ③ 鏑競り合いになった瞬間、技が出ない場合にはただちに積極的分かれる。

④ 試合者は審判員の「分かれ」の宣告を待つのではなく試合者双方で分かれる努力をする。等が記されています。

三 試合は稽古のごとく、稽古は試合のごとく

先般の本県連執行部会で、南会長が昨年9月の東西対抗と11月の全日本選手権をLIVE配信で視聴し、「暫定的な審判法のもとで行われた近々の大会は、攻防の緊張感が持続する見応えのある試合が続きました。試合が稽古に近くなった成果でしょうね」と発言されました。すぐに私も3年前の全日本選手権のDVDと見比べて、確実に良くなっていると実感しま

した。

普段の稽古において真剣勝負の心持ちで縁を切らずに集中する稽古ができれば、試合においても平常心で臨むことができ、良い結果が出せると先達から教わります。県立武道館における合同稽古では、高齢者から少年まで幅広い年齢層の参加がありますが、時に鏑競り合いと応じ技に固執する剣士と竹刀を交える機会があります。まずは攻め合いの稽古を心がけて欲しいものです。

四 結びに

鏑競り合いはこれまで剣道界の永年の課題であり、コロナ禍が一つの改善につながった感がありますが、試合が良くなれば剣道が良くなり、魅力ある剣道・生涯剣道につながります。

全日本剣道連盟は「暫定的な試合・審判法」について、今後は国際的にも浸透を図る方向に進むと述べています。

日本の伝統文化である剣道の凛とした薫りが地域社会にも伝わっていくよう尽力して行きたいものです。

特集

「石川インターハイ」

を振り返って



(県高体連剣道専門部委員長)
金沢桜丘高等学校
教諭 小田 哲生

はじめに

令和3年8月9～12日、第68回全国高等学校剣道大会が本県いしかわ総合スポーツセンターで開催されました。インターハイ剣道競技の本県開催は5年前の平成28年度末に全国高体連から通達があり、令和3年度インターハイは北信越5県で全競技(ヨットを除く)が開催、本県は剣道、バレーボール、ソフトテニス、なぎなたの4競技が開催されました。



(写真) インターハイの会場となったいしかわ総合スポーツセンター

本県におけるインターハイ剣道競技の開催は昭和60年度羽咋市にて開催されて以来、実に36年ぶりのことです。本大会の準備・開催にあたり石川県剣道連盟には、数年にわたり多大なるご支援とご協力をいただきました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

強化事業について

県高体連剣道専門部として地元インターハイの開催を本県剣道の競技力向上と普及発展に向けたチャンスと捉え計画してきました。

まず、平成29～30年の2年間は中学生を対象とした強化を中心に実施してきました。県中体連にもご協力をいただき、中体連が主体となる強化と、高校と中学校が連携をとった強化の二本柱で実施しました。この試みは従来実施してきた選抜方法を変更するなど、参加する選手層の拡大に取り組みしました。幾度かの強化会でたくさん先生方に指導していただいたことにより、参加した選手はもちろん、若手の指導者にも大変良い学びの機会となりました。

令和元～2年度は高校生の強化を中心に行ってきました。強化内容については稽古で地力をつける機

会と試合で競技力をつける機会の双方向から取り組みを実施しました。地力をつける強化としては、県内の有望選手を強化指定して稽古会を月1回県立武道館にて実施してきました。県剣連山下和廣前会長や南信廣現会長をはじめ、執行部の先生方の激励を賜うことができた稽古会は選手にとって大変貴重な機会でありました。

競技力の向上としての取り組みは、県剣道連盟主催の「百万石杯争奪高校剣道交流大会」で招聘している熊本県九州学院高等学校と福岡県中村学園女子高等学校、長崎県島原高等学校をはじめ、全国からたくさんさんの強豪校が石川県に集まり、県内高校全生徒が全国レベルの選手と剣を交えてきました。特別企画として、令和元年度は九州学院の米田敏郎氏に本県高校生を指導していただきました。また、令和2年度にも九州学院監督の米田氏と中村学園女子高校監督の岩城規彦氏の両先生方に指導をいただきました。両校の主力選手と本県高校生による合同強化練習を実施しました。本県高校生は全国トップレベルの指導者の指導を食い入るよう

に吸収し、全国トップレベルの選手との交流では取り組み方や姿勢から上達へのヒントを学んでいました。両先生方の生徒を引き付ける言葉

かけや情熱を注いだ指導に本県指導者も多くの刺激を受け発奮しました。

最終的にインターハイの出場は各学校単位となるため、本来なら各学校独自で強化を進めるところでありましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続き、休校期間や部活動時間の制限、更には県外練習試合や合宿の禁止などにより、なかなか思うような強化ができないまま、インターハイ予選となる県総体と石川インターハイを迎えることになりました。しかしながら選手はコロナ禍の制限の中で工夫や努力を積み重ね、大会に臨んでいました。

強化実績について

令和2年2月頃から新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、令和元年度全国選抜大会、令和2年度岡山インターハイ、令和2・3年度国民体育大会等多くの大会が中止となりました。困難な状況の中でもインターハイに向けた強化は少しずつ実を結び結果がでてきたように感じます。

- ・H30インターハイ男子個人の部で供田崇弘(金沢桜丘)がベスト8。
- ・H30・R元国民体育大会で少年女子の部が2年連続5位入賞。
- ・R元・3北信越大会女子団体の部

で金沢高校が2連覇。(R2中止)
 ・R2全国選抜大会女子団体の部で金沢高校がベスト16。
 ・R3インターハイ男子個人の部で指本悠稀(金沢桜丘)が第3位。
 女子団体の部で金沢桜丘高校がベスト16。



(写真) 男子個人の部で第3位に入賞した指本悠稀(金沢桜丘高校2年)

大会運営について

本来なら、県内の中学生や小学生が地元インターハイを観覧できる絶好の機会であり、高校剣道界の日本一を決める全国大会を身近に感じて欲しいと観覧を予定していましたが、令和2年度岡山インターハイ中止から2年ぶりのインターハイ開催は全国的にも感染拡大がピークの状態であり、「無観客」として実施されました。

コロナ禍での大会運営は例年以上に大変な準備と苦労が求められました。また、本県高体連の組織は他県から比べても人数も少なく、

特に中堅層の教員が少ないため、一人一人の負担は大きなものでした。インターハイ実行委員を担当した宮城島優氏と原田竜郎氏の2名は平成30年度の三重インターハイから視察を行い、準備を進めてきました。これに加え更に例年とは異なるコロナ対策に忙殺されることになりました。万が一への細心の準備と万全の対策があつたからこそ、何とか危機を乗り越えることができました。この大会の成功には宮城島氏と原田氏の功績が大きく、加えて石川県剣道連盟の強力なバックアップに助けられました。また、本県の剣道部顧問の先生方や中体連の先生方の協力、そして、補助員を努めてくれた県内高校生の献身的な活躍が大会運営に花を添えてくれました。



(写真) 県内高校生によるコロナ対策を施した竹刀検量の様子

特に高校生活動として金沢市立工業高等学校の生徒には大会ブラカードを作成してもらいました。また、そのブラカードは大会出場校に記念として渡され、好評でした。

例年と違う感染防止対策の徹底、WEBによる開会式、地元企業による試合記録配信、日程を1日増やして男女別開催など変更点も多くあり、さらには、大会2日目の台風接近への対応などの難局もありましたが、インターハイ実行委員会をはじめとした県内役員全員の適切な対応とチームワークによって、4日間のインターハイを無事終了することができました。そして、新型コロナウイルスの感染拡大がピークの中で奇跡的に実施できた本大会は記憶に残る大会となりました。

今後へ

インターハイの成功は大会運営や大会結果だけで終わらず、今後の競技力向上や普及発展につながつてこそ成功であると考えています。インターハイに向けて実施してきた強化について吟味し発展させ、若手指導者が中心となって石川県の

剣道を今後さらに成長させてくれることを期待しています。

殊に、普及発展については問題点が残っています。コロナ禍の期間に高校の剣道競技人口が激減しました。この原因分析と対策検討を含め、剣道の普及発展にしっかりと向き合い対応していかなければならないです。そして数年後には、令和3年度の石川インターハイが開催されて良かったと思えるように、今後も県高体連剣道専門部は石川県の



剣道連盟と共に精進していく所存です。

(写真) 出場校へ応援の「のぼり旗」大会後は記念品として喜ばれました

令和3年度居合道講習会 (居合道委員会)

9月5日(日)、県立武道館剣道場において「令和3年度居合道講習会」を開催しました。

講習会には、県内各教室から約30名が参加し、講師を中村正人居合道委員長(範士八段)が務め、次の内容で行われました。

①倫理研修(ガバナンス・コンプライアンス)全剣連の取り組み(他)

②全剣連居合(1本目・12本目)

③審判・審査員の心構え(講話、審判規則、審判要領)

④審判実技

⑤古流の研究

今回の講習会も、新型コロナウイルス感染症予防及び拡大防止の観点から、施設、講習会場の入口には消毒液を配置。講師、受講者は検温、体温の確認、手指消毒をしてからの入館、入場。講習中、実技中、待機中もマスクを着用、手指消毒の徹底、ソーシャルディスタンスの確保、黙食、行動範囲の

限定(四階のみ)、使用審判旗の消毒等万全の体制の下、行われました。



秋の剣道講習会

(普及委員会)

11月3日(祝) 加賀会場(小松武道館、参加83名)、11月14日(日) 能登会場(鹿島体育館、参加74名)で秋の講習会が開催されました。

主な講習内容は、次の通りです。

①総括指導(宇波和彦教士八段)

②日本剣道形(岩脇司教士八段)

全剣連剣道講習会資料に基づ

き重点事項を細部にわたり説明いただき、実技に入りました。



③審判法(杉本卓也教士八段)

ガイドラインを踏まえた試合・審判の留意点について説明があり、審判能力の向上と資質を高めるため、グループ分けによる審判研修に入りました。

④医科学講話(俵広樹顧問医師)

県内の感染状況、症状と治療、現場での対策、新型コロナウイルス感染症への対応策について説明をいただきました。



各会場では終日にわたり専任係員による換気と密を避ける行動に細心の注意を払い、昼食時や昼食後の在り方、消毒等万全の感染対策により計画されたすべての内容の実施となりました。

今回、当連盟顧問医師の俵広樹氏(県立中央病院消化器外科医師)からコロナ最前線から見た剣道の在り方を助言いただき、受講者は改めて「三つの密」(密閉・密集・密接)を避け、積極的な換気と消毒の大切さを胸に刻んだ一日でした。

特集

郡市剣道連盟

紹介コーナー

河北郡市剣道連盟

嶋 弘

河北郡市剣道連盟は、かほく市、内灘町、津幡町の一市二町の各剣道協会から構成されています。それぞれの市町が独自に稽古日を設け、そして毎月第三金曜日の午後八時からかほく市の新化館において合同稽古会を実施しています。

参加者は、小学生から一般までの老若男女問わない愛好家であり、一人一人が技術向上のための意見交換等を通して、それぞれの実力に応じた高みを目指して稽古に励んでいるところです。その成果もあり中央審査となる六段・七段の高段位審査会で数多くの合格者が出ています。

また、長年にわたり地域一丸となつて小中学生の育成にも力を注いでおり、生涯スポーツとしての剣道の素晴らしさを通じ豊かな人間形成の道を次の世代へと継承して

いくことも大切にしていきたいと思っています。

近年は、新型コロナウイルス感染防止の観点から、当連盟が主催する「剣道河北大会」も二年に渡り中止を余儀なくされ、コロナ収束まではまだ時間がかかると思われますが、今年こそは感染防止対策に万全を期し同大会を開催し、県下の剣士の方々との交流を深めていきたいと思っています。



羽咋郡市剣道連盟

松本 悟

羽咋郡市剣道連盟は、羽咋郡市の一市二町（羽咋市、宝達志水町、志賀町）の会員で構成されています。

羽咋郡市の稽古会にはどなたでも気軽に参加できる開放的な雰囲気があり、郡市外からも毎週多くの方々が参加されています。

羽咋市武道館

で行われている木曜日十九時から「木錬会」には、市内外から一般の方々だけでなく、向上心旺盛な小・中学生、高校生も多く参加しています。元立ちは



は多くの七段、八段の先生方が並ばれ、参加者が熱心に稽古をお願いしている姿は印象的です。また、宝達志水町では火曜日十九時からと土曜日七時から宝達志水町武道館で稽古会が行われています。特に土曜日は早朝にもかかわらず、町内外から多くの方々が増加して汗を流しています。

羽咋郡市の稽古会の成果としては、近年、昇段される方の多いことがあげられます。令和三年は郡市会員から六段に二名、七段に一名が昇段いたしました。ここ数年

は毎年のように六、七段の昇段者が出ており、郡市会員以外でもこの稽古会に参加されて昇段を果たされた方は多く、大変有意義な稽古会になっていると言えるでしょう。

また、この夏に本県で行われた全国高校総体の団体・個人には男子五名、女子二名、神奈川全大会の女子個人には一名の郡市出身者が出場し、健闘しました。近年は全国大会等に出場する郡市出身者も増え、活躍する選手たちの姿は頼もしい限りです。これも稽古会等を通じて、羽咋郡市全体で少年・若手剣士の指導・育成に取り組んできたひとつの成果だと思っています。

今後とも羽咋郡市剣道連盟一丸となつて、少年・若手剣士の指導・育成にも積極的に取り組みながら、剣道人口の底辺拡大、剣道の普及・発展に尽力して参りたいと思います。



令和三年剣道連盟表彰

12月26日(日) 県立武道館において、南信廣会長より表彰状の伝達・授与がありました。

(公財) 全日本剣道連盟より

【剣道有功賞】

・高嶋淳一(県剣連顧問) 前年度分
・伊賀清秀(県剣連評議員)

【少年教育奨励賞】

・指江剣道教室
・寺井剣道教室



(二財) 石川県剣道連盟より

【少年剣道教室指導者】

地域の少年剣道教室指導に尽力

・塩野克幸(大聖寺)

・安本正道(鳥越)

・富田 東(森本)

・北川壮一郎(アカシア)

・山本重之(宝達)

・加地伸弥(七尾市小丸山)

・森 裕一(門前)

【会長表彰】

インターハイ男子個人3位入賞

・選手 指本悠稀(金沢桜丘2年)

・監督 小田哲生(金沢桜丘教諭)



中央審査会合格体験記

剣道七段に合格して



能美市

二塚 良一

今回、名古屋七段審査会で合格させていただきました。山下和廣先生はじめ県剣連の先生方、物見山稽古会の皆様に御礼申し上げます。

コロナ禍で武道館や体育館の閉鎖により、審査前はひと月と十日程度しか防具を着けての稽古はできませんでしたが、集中して取り組み良い結果が出て自分自身喜んでいきます。

審査会で合格する有効打突を身に付けるにはどうすべきか考えたところ、稽古回数を増やし、質を高める結論へと行き着きました。仕事や生活上やらなければならないことの調整を図り、週の月・木曜日に物見山道場での稽古で山下先生にご指導いただき、形稽古と基本技の反復稽古、地稽古をしました。

火・土曜日は県立武道館で県剣連の先生方に上手掛りをさせていただきました。

また、高段者稽古会へは欠かさず出席し、構え、竹刀の握り、手の内、攻め、相手より位が高いという気持ち等の指導を受け、出頭技、応じ技、返し技の稽古をしたことで地力が付いてきたと思いました。

高段者稽古会での審査前模擬の立合いでは、自分で立合いの流れを「合気になって初太刀に面で打ち抜けて攻め返した後、応じ、返しに展開する」とイメージして行ったところ、「今日は良かった」と評価していただいたことが自信となりました。

審査当日の立合いでは、二人ともに初太刀の面が打て、二人目の時に間合いを詰めて面に誘って、打ってきたところをすり上げて胴を打つことができました。終わった後に「こ

んなにいい日もあるんだ」と満足できた一日でした。

工夫という点では、道場での立合いや基本打ちの状態をビデオ撮影して自分で観て研究することが大切だと思います。また、鏡の前の一人稽古で着装や構え、竹刀の握り、足の引き付けの確認をしました。ご指導いただいたことを記載する手帳には「右手が強い」とか「左の握りが上下する」と書かれています。何度も同じ指摘をいただき、反省しきりではありますが、頭で理解して実際にはできるとは限らない難しさがあります。

今ようやく七段の入口に立たせていただきましたので、今後は正しい剣道を目指し、課題を持って稽古に励みたいと思います。

剣道六段審査までを振り返って



金沢市

吉村 嘉綱

六十歳になる頃、健康維持のため続けていた剣道で怪我也多くなり、続けるのは難しいのかなあと考えていた折、忘年会の席で高嶋淳一先生

から五段を目指したらどうかと勧められ大変な驚きを受けるとともに、「無理です」と直ちにお断りを申し上げましたが、先生からは「人間、幾つになっても目標を持たないと駄目」と強く諭され、皆の前で挑戦するとの約束に至りました。

以前、自分の稽古を撮影して頂き、見ましたが、その姿は巻き肩で打ちにも冴えがなく、幾つもの悪癖が目につき、当時は審査の壁がとて高く感じておりました。

それから一年余り、目標に向け、様々な迷いもありましたが、多くの先生にご指導を賜ったお蔭で五段を頂きました。また、このことが契機となり、剣道への関心が更に高まるとともに自分の未熟さもひたひたと感じ入る次第でありました。

その後、稽古会の先生や同友から六段を目指しましょうと励まされたこと、昨年六月末で仕事が終わる時間が取れるので、六段を目指した稽古に取り組む決意を致しました。

しかし、コロナ禍で稽古する場所も当面なく、素振り、剣道形および体力づくりに没頭し、特に、素振りは工夫をしながら取り組みました。

昨年九月頃から県連稽古会に参

加させて頂き、指導稽古では山下和廣先生をはじめとして県連の先生方に、悪癖のご指摘と基本に忠実な剣道をご指導頂き、基本の大切さ、逃げずに基本通りに行う難しさを改めて熟思させて頂き、感謝の念に堪えません。ご指導頂いたことは、これからの課題でもあり、地道に継続して参ります。

審査では、ご指導頂いたことを一つ一つ噛みしめて挑み、二回の立ち合いとも攻めて打ち切ることに集中し、結果へと繋がりました。

ここに至るには怪我あり、迷いありで順風とは言えませんでした。

今後も悪癖が出ないように、基本に沿った剣道に心掛け、からだのケアにも注意し、少しでも高みを目指す剣道に取り組んで行ければと考えております。皆様方には引き続き宜しくお願い致します。

『かたつむり』



野々市市

本田 仁美

『たゆまざる 歩みおそろし かたつむり』

これは、今回の六段合格に際し、金沢桜丘高校剣道部の先輩である安江正紀先生から戴いたお祝いの品に添えられていた句です。作者は彫刻家の北村西望という方で「自分は天才ではない。人が五年かけてやることを十年かけてやる。」との思いを詠まれたとのこと。

この句を読んだ時、真つ先に思い浮かんだのは十年近い五段審査挑戦の日々でした。共に稽古をしていた周りの仲間が次々と五段になり六段になっていく中、焦りや迷いの気持ちが大きくなり稽古や審査に気持ちに向かなくなる時期もありました。それでも諦めようと思つたことは一度もなく、先生方からいただくご助言を自分なりに消化し、稽古の時の一本一本について「何故打てたか」「何故打たれたか」「何故打てなかつたか」「何故打たれなかつたか」を常に考えるようにして稽古に臨みました。

私は天賦の才には恵まれなかつた『かたつむり』ですが、努力をし続けられる才には恵まれたようで、金沢桜丘高校時代の顧問であり、私が最も尊敬する剣士である末平佑二先生からも「技量もセンスもさほどないが、努力だけは人一倍」とのお褒め(?)の言葉をいただき、

益々頑張ろうと思ったことを覚えています。

ゆつくりと歩み続けながら、よく考え、しつかりと進んでいく。諦めるということを知らない『かたつむり』は、今回も時間をかけて六段という一つの目標にたどりつきました。

もちろん、この道は一人の力で歩んできたのではなく、警察現職時代から退職後の今に至るまで常にご指導をいただいた泉浩幸先生をはじめとする諸先生方や共に励まし合つて稽古に励んだ仲間、いつも応援してくれた今は亡き義母ら家族がいたからこそと心から有難く思っております。そして、そのひたむきな姿勢で「先生も頑張れ」と言ってくれているような子どもたち(現在、少年剣道と中学校剣道部で指導)にも感謝しながら、これからも厳しい剣の道を私らしくゆつくりとしつかりと歩み続けようと思っております。

〔全国大会等記録〕(7~12月)

◎第13回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

7月10日、ジェイテクトアリーナ奈良
▽一回戦
三重③—0石川

◎第42回北信越中学校総合競技大会

8月2日、富山県西部体育センター
▽男子団体
宇ノ氣中③—2柴錦台中
▽準決勝
宇ノ氣中③—1石山中(新潟)
▽決勝
宇ノ氣中①—1石山中(新潟)
▽男子個人
▽第2位 藤井啓士朗(芦城中)

▽女子団体
▽準決勝
羽咋中③—0宇ノ氣中
▽決勝
松代中(長野)②—1羽咋中

◎第68回全国高等学校剣道大会

8月9~12日、いしかわ総合S・C
▽男子団体
▽予選リーグ
竜谷(佐賀)②—1市立工業
市立沼田(広島)②—1市立工業
市立工業は予選リーグ敗退
長崎南山(長崎)⑤—0羽咋工業
翔凍(千葉)④—1羽咋工業
※羽咋工業は予選リーグ敗退

▽男子個人
▽第3位 指本悠稀(金沢桜丘)
※指本悠稀は男子優秀選手

▽女子団体
▽予選リーグ
中村学園女子(福岡)③—0金沢
金沢③—0山形市立商業山形
※金沢は予選リーグ敗退

金沢桜丘②—1岡山商大附(岡山)
金沢桜丘②—1淑徳巣鴨(東京)
※金沢桜丘は決勝トーナメントへ

◎第51回全国中学校剣道大会

8月20~22日、川崎市とどろきアリーナ
▽男子団体
一回戦
城辺中(愛媛)②—2宇ノ氣中
▽女子団体
一回戦
宇ノ氣中②—2広野中(福島)
宇ノ氣中④—1那賀川中(徳島)
▽二回戦
宇ノ氣中④—1那賀川中(徳島)
▽三回戦
幕張本郷(千葉)③—1宇ノ氣中

◎第42回北信越国民体育大会剣道競技

8月22日、長野県中野市民体育館
▽成年女子
長野①—0石川
石川③—0新潟
石川①—0福井(石川の代表勝ち)
※石川2位(2勝1敗)

▽少年男子
石川①—0新潟
石川②—0長野
石川①—0富山
石川②—0福井
※石川1位(4勝)本県体出場権獲得

▽少年女子
石川②—0長野
石川②—0石川
石川②—1富山
新潟②—1石川
※石川3位(2勝2敗)

◎第60回全日本女子剣道選手権大会

9月19日、ジェイテクトアリーナ奈良
▽一回戦
根来優羽(岡山)メー 高木陽奈子

◎第56回全日本居合道大会

10月9日、東京武道館
▽七段の部 ビットマン・ハイコ

▽決勝トーナメント一回戦
中村学園女子(福岡)②—2金沢桜丘

▽六段の部 一回戦敗退
二木有紀江 ベスト16
▽五段の部 西村真人 二回戦敗退

◎第48回全日本杖道大会

10月17日、名古屋市中村S・C
▽七段の部 ビットマン・ハイコ
平野節夫組 ベスト8

◎第69回全日本剣道選手権大会

11月3日、日本武道館
▽一回戦
菅野隆介(岩手)メー 中村文哉

中央審査会合格者

◇剣道

▽七段 井尾雅昭 細井將守
本吉秀充 田中正人
中井秀人 二塚良一

▽六段 蓮本義哲 山本真也
竹内一浩 本田仁美

▽教士 吉村嘉綱 宮口昌尚
竹田浩之 寺西清志
梅 幸彦 松原裕樹

▽錬士 井尾雅昭 松本巨市 表 克寿
山越 徹

◇居合道

▽七段 望月 隆

▽六段 西村 真人

▽教士 中村 光成

▽錬士 高柳陽一 二木有紀江

◇杖道

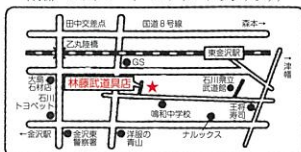
▽教士 ビットマン・ハイコ

林藤武道具店

〒920-0803 石川県金沢市神宮寺町1番地83
Tel.076-252-2220 Fax.076-252-2240
HP <http://www.rindoubudougu.jp/>
E-mail:budou@chive.ocn.ne.jp

●定休日/月曜日

〔営業品目〕
剣道・柔道・空手・なぎなた・武道具全般
(剣織・ゼッケン・ネームプリントも承ります)



武道具の
ハシモト
KIRI BRAND

金沢市上荒屋7丁目67 TEL249-8233
〒921-8065 FAX249-9139